

博士課程
看護学領域
HD119004
高橋 静子

I. 背景

診断・治療技術の進歩に伴い、医療を取り巻く環境は複雑化・高度化している。そのような環境において、組織全体で安全を推進することは極めて重要である。組織全体を俯瞰した安全管理を担う医療安全管理者がその責任を果たすためには、整った職場環境が必要である。しかし、医療安全管理者の安全管理活動への取り組みと職場環境との関連は明らかになっていない。安全管理活動への取り組みと職場環境との関連を明らかにすることで、医療安全管理者の安全管理活動への取り組みを支援する方策を提案することが可能となる。

II. 目的

医療安全管理者の安全管理活動への取り組みと職場環境の実態を明らかにした上で、施設特性や個人属性（レジリエンス特性を含む）を調整し、安全管理活動への取り組みと職場環境の関連を明らかにする。

III. 方法

関東甲信越地方の医療安全対策加算 1 または 2 を届け出ている 1206 施設のうち、研究協力が得られた 404 施設を対象に、当該施設に所属する医療安全管理者全員を対象とした WEB 調査を実施した。調査項目は、個人属性（レジリエンスを含む）、施設特性、安全管理活動への取り組み、安全管理活動にかかわる職場環境であった。分析は記述統計を行い、安全管理活動への取り組みと安全管理活動にかかわる職場環境のそれぞれについて因子分析を行い、尺度を作成した。安全管理活動への取り組みを目的変数、安全管理活動にかかわる職場環境を説明変数、施設特性、個人属性、二次元レジリエンス要因尺度を調整変数として階層的重回帰分析を行った。統計処理には JMP16.2 を用い、統計学的有意水準は 5% 未満とした。

IV. 結果

回答者 480 名のうち、医療資格のない者、有床診療所所属者を除いた 471 名を分析対象とした。安全管理活動への取り組み 15 項目のうち、「問題が解決できないときに周囲の意見を聞く」は 95.8% と高く、「自己研鑽のために学会や研究会で発表する」は 17.2% と低かった。また、安全管理活動にかかわる職場環境 20 項目のうち、「医療安全管理部門は組織内に明確に位置づけられている」が 96.2% と高く、「医療安全管理者には賃金手当が支給されている」は 9.8% と低かった。

安全管理活動への取り組み（3 因子）と職場環境（4 因子）との関連では、「医療安全に関する運営方針が明確な職場」は、「問題解決に向けた取り組み」、「問題発生防止に向けた取り組み」、「自己研鑽や人脈活用への取り組み」と有意な正の関連を示した。また、「お互いに学び合い、本音で話し合える職場」は、「問題解決に向けた取り組み」や「問題発生防止に向けた取り組み」と有意な正の関連を示した。

V. 結論

医療安全管理者の安全管理活動への取り組みを支援するための職場環境として、「医療安全に関する運営方針が明確な職場」「お互いに学び合い、本音で話し合える職場」が重要であることが示された。

キーワード

医療安全管理者、安全管理活動、職場環境、階層的重回帰分析